

訪問看護ステーションおりーぶ

大田原市住吉町2-1-9-4

スカイハイツコスモA棟103号室

施設のアピール

地域に信頼されるステーションを
目指します。

令和4年9月に開設され、まだ4か月目ですが、顔が見える連携づくりを合言葉に、笑顔のある看護を心がけています。そして、利用者様が安心して療養生活が送れるよう、少しでも笑顔の回数が増えるよう利用者様の思いを大切にしながら寄り添っていきます。関わる対象は人であり、その方の人生の数分、数時間、数ページになるかもしれませんが、関わる方の思いを大切に生活を支えるお手伝いができればと考えています。

「時々病院、ほぼ在宅」がモットー



制服のオリーブ色が、イメージをアップ！明るく、整理整頓され、さわやかさが感じられる事務所でした。

施設の役割や特徴について

病気や障害のある方が、住み慣れた地域、居宅（自宅や介護施設等）で療養生活が送れるように医療と生活の両方の視点からその人らしい暮らしを支援することが訪問看護の大きな役割となります。国は、地域包括ケアシステムという体制づくりを進めてきましたが、家族の支えだけで在宅介護を行うのは多大な困難を伴います。それは、利用者の重度化・多様化・複雑化が進んでいる実態があるからと考えられます。

だからこそ、私たちは利用者様の医療度が高くて、要介護状態になっても、人生の最期まで住み慣れた地域で、自分らしく暮らし続けることができるように支援したいと思っています。

訪問看護ステーションおりーぶは、医療と介護をつなぐ重要な役割もあると実感しています。

スタッフには、利用者様が自宅で過ごしやすくするための知識や技術を持った訪問看護認定看護師もいます。

組織母体は萌彰会であり、那須脳神経外科病院との連携支援体制



利用保険割合
医療保険：3割
介護保険：7割

管理者 溝口靖子様
医療福祉連携士
看護師

ができています。特に、訪問リハビリテーションとの連携は、自宅での生活意欲を高め、日常生活の維持・自立の支援につながっています。

* 営業日 月から金

* 土日祝日も必要に応じて対応

* 24時間対応

* 訪問リハビリ対応

那須脳神経外科病院と連携



連携している主な医療機関

那須脳神経外科病院、那須赤十字病院、那須中央病院、国際医療福祉大学病院、那須郡市医師会のかかりつけ医等の他、国際医療福祉大学塩谷病院、自治医科大学附属病院などからの依頼があります。



コロナ禍での訪問体制が困難な中、早くインタビューを受けて下さいました。

穏やかな話し方や表情の奥に、秘めた情熱が感じられ、今後地域に根差したしっかりと在宅医療への道筋ができることを、期待したいと思います。

ケアマネジャーとの連携

利用者様の総合的な支援が円滑に行えるように、ケアマネジャーや在宅支援関係者の皆様と顔の見える関係の構築を図っております。情報提供の際には、電話するだけでは伝わらないこともあるため、訪問しケアマネジャーと直接お話をさせていただいております。

薬剤師さんとのつながり

利用者様のかかりつけの薬局にも訪問し、つながりを大切にしていきます。残薬をなくす工夫や飲み合わせ、副作用など薬剤師さんから教えてもらうことも多く、いろいろ勉強になります。

コラム 知っていますか？

医療福祉連携士

この資格は、医療・福祉分野の連携・調整のエキスパートとして、2011年度に日本医療マネジメント学会がスタートさせた認定資格です。主な役割は、病院を退院した患者が医療と福祉・介護の必要なサービスを受けながら住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、円滑な連携の推進に寄与することです。



よく会話をしコミュニケーションをとっている皆さんです。

心に残った事例

○笑顔の素敵なTさん・・・
前の事業所から引き継ぎ、約2年半支援したTさんが永眠されました。九〇代のTさんは、私達訪問看護師を受け入れて、人としての関係性を築かせてくださいました。人生の大先輩として、若かりし頃の苦労を乗り越えてきた話や、人との出逢いの大切さをいつも聞かせていただきました。

訪問看護が介入する前のTさんは、体調が不安定で入院を繰り返す状態でしたが、介入後は一度も入院することなく、最期まで自宅で家族と過ごせました。

その要因は、介護する家族の不安が軽減され、共にTさんに向き合う伴走者となり、「介護」という重役を担う家族のサポーターとなっていたからだと確信しています。

Tさんはおちゃめなところがあり、会話中相手の考えていることの裏を返してくる楽しいコミュニケーション能力に長けていました。その対話を笑いにして、ケアしながら楽しくおしゃべりする時間がとても愛おしく、それを見てる家族も笑顔になる姿が嬉しかったです。Tさんのケアは全身清拭がメインでしたが、実施すると「お風呂で湯に浸かったようで本当に気持ちが良い」と話してくださいましたのが印象に残っています。Tさんの家族は、皆温かい人達だったのです。どんなに私たちが癒されたかわかりません。Tさんの人柄、生き方そのものが家族の在り方な

のだろうと思えました。
家族が安心してTさんを自宅で看取ることができるといふ訪問看護の目標は達成されました。
この事例を通して、介護する不安、思い、絆をTさん・ご家族から教わりました。今後の訪問看護でも、利用者様の声を無駄にしないように、学びを活かしていきたいと思いました。

○その人らしさを大切に

訪問看護を始めた頃、以前病棟勤務をしていた時にお会いしたAさんのお宅に訪問しました。自宅でのAさんは、入院中のAさんとは別人で、穏やかな表情、家庭で必要とされている生きいきとした姿でした。その時、私は利用者様が社会で生活をする一人の人として、その人らしさを大切に、安心して生活を送ることができるといふ提供したいと感じました。訪問看護師として十数年たち、利用者様やご家族からたくさん笑顔や優しいお言葉をいただき、私自身の力として邁進しています。

みんな違ってもかまわない
パズルのピースで形が違ってても
ピースがうまくまらなければ、他の人が
困んでくれるからうまくいく

管理者がインタビューの合間に言っていた言葉が耳に残りました。

豆記者



訪問車のカラーもオリーブ色でした。



○訪問看護の好きどころ
「知らない人」から、「顔を見ると安心する人」になること
そんな存在になれたかなと思うとき、私のやりがいを感じられる瞬間です。初めは表情が硬かった利用者様も、一生懸命生きている生活背景を大切にしながら一緒に不安を解決していくと、自然と笑顔になって、私も利用者様・ご家族から毎日元気をもらっています。
みんなは一人のために、一人はみんなのために、みんなで支え合えることが訪問看護の醍醐味だと思います。

スタッフがみた管理者は・・・
趣味がギターのKさんは

とにかく明るい！相談しやすい。自分の経験から適切なアドバイスをしてくれる。「こうしたらいいじゃない」と前向きになれて、安心して訪問ができる。

息子さんのサッカー送迎と観戦が楽しみ
のTさんは

事務所内はいつも和気あいあいとして話しやすい、聞きやすい、結果自信をもって看護できる。守られている自分が感じられる。

三人の子供たちの部活応援、愛犬マルちゃんの1日3回散歩が生きがいのHさんは

事務員さんがいるから、のびのび訪問看護師ができています。そして落ち込んでいた時は、管理者がすぐフォローしてくれる。毎日充実していて笑顔がたくさん見える。

オリーブは、スタッフで成り立っている！
これは管理者の声です。